

第1回特別委員会の概要

以下の日時と場所、出席者で開催した。議事の概要は議事次第に枠を作って書き出した。

開催目的が広報委員会と防災委員会の活動計画の説明とその支部4役の承認であった。結果的に計画は4役に承認され、2つの分科会は活動を開始した。なお、景観分科会は、代表専門家の承認は得たものの活動計画は未着手の状態にある。

中の村自治活動活性化委員会（第1回）

日時：R6年6月29日（土）13時半～15時半

場所：川地コミュニティ図書室

出席者（敬称略）：中田 猛（大坪）、玉岡秀利（木舟）

小松木 明、長岡憲治、川本正勝、
宮崎美幸、末國富雄

議事次第（議事進行は川本事務局長）

1. 開催趣旨の説明（末國）

広報分科会と防災分科会の活動計画を説明し、活動内容と予算案について自治会執行部の承認を得たあと、7月から実行（予算を消化）に移したい。

このとおり説明した。

2. 広報分科会の活動計画の説明

(1) ブログのサンプル説明（中田専門家）

パソコンを持参してプロジェクターを使って「大坪常会資料室」の内容や操作方法を説明した。

(2) 活動計画と予算の説明（末國事務局）

活動計画を資料に沿って説明した。

(3) 質疑

- ・新しく作る「中の村自治会ブログ」もスマホなどを持っている者は簡単に閲覧できること、ネット上の住所とパスワードを知っている者（中の村住民）だけが閲覧できることが理解された。
- ・事務局長より、市のDX担当や運営担当者を招くことができるとの提案があった。
- ・中の村自治会ブログの運営委託者の選定は、候補者に当たってみることになった。

3. 防災分科会の活動計画の説明

(1) 活動計画と予算の説明（末國事務局）

活動計画を資料に沿って説明した。

(2) 防災活動の意義とアンケート調査（玉岡専門家）

玉岡専門家の意見

- ・住民の命を守ることが大切だが、地域組織の活動内容が体系的に整理されていない。
- ・役員が代わっても役割が継承されるようにすることが重要だ。
- ・最終的に作成する「手引き」は、災害発生時の行動マニュアルと考えている。
- ・防災士は、避難対応が変更される中で、最新の避難対応情報を持っている人たち
- ・避難指示が出た時、納得して避難してもらうために説得する必要があり、民生委員や福祉施設職員の知見が重要です。
- ・アンケートは、漏水・洪水対策を作っていくための入り口と考えている。各常会で避難計画が作られるのが望ましく、現行計画を見直すきっかけになればと思う。
- ・常会に任せすぎず自治会がカバーすることも重要で、例えば避難指示3が出た時に自治会4役は何をしなければならぬのかを自覚しておく必要がある。

アンケート調査の設問は、玉岡専門家が監修して提案したものの。アンケートを記入してもらう際には、例えば常会で常会長が必要性や意義を常会員に説明した上で行うのが望ましいとの専門家説明があった。

会議と会議後に3役グループLINEで以下の意見があった。右枠内の意見は、専門家と事務局のその後の意見

- ・（会議）複数選択した場合は、選択肢に優先順位をつけるようにしたらどうか。
- ・（LINE）以下の追加設問を設ける。
Q1：スマホか」ガラケーか
Q2：1軒に1台以上スマホがあるか
- ・（LINE）「ペットが居るから」を選択肢に加え、避難先に求めることを選択肢に「ペットの対応」を加える。川地小はペット禁止で「日頃からケージに慣れさせる」という市の指導もある。
- ・（LINE）設問11に以下の選択肢を追加する。
「屋内安全確保（垂直避難（2階へ））を考えた」

- ・順位付けを整理・分析できるかどうか。
- ・今回はそこまでの詳細調査は求めなくて良いのではないか。
- ・避難は、長くて1泊程度を想定している。

（3）専門家の追加について

- ・分科会事務局から、防災分科会の専門家候補者3名を示し招聘活動を行ってよいか諮り承認された。

（4）質疑

4. 閉会あいさつ（小松木会長）

提出資料：特別委員会規約（案）、活動計画案（広報分科会）、大坪常会ブログのコピー
活動計画案（防災分科会）、住民アンケート案

会計情報：

- ・自治会4役の承認を受け、レンタルサーバー会社などとの契約が進み経費払い込み済み
- ・この第1回会議でも2名の専門家に対して@5,093円が発生している。